

平成30年度第2回西宮市生物多様性推進部会 《会議録兼発言要旨》

- 開催日時：平成30年12月17日（月）午前10時～正午
- 会場：西宮市職員会館 大会議室
- 出席委員：遠藤委員、佐山委員、小川委員、大谷委員
- アドバイザー：(株)里と水辺研究所 田村氏
- 事務局：土木局長 他12名

1. 開催挨拶・・・省略

2. 報告事項

(1) 第6回御前浜公園の自然環境保全のあり方意見交換会の開催結果について

- ・平成30年11月30日（金）に開催した。海浜植物の保全管理マニュアル及び、ボランティア活動用の倉庫の設置や可燃ごみ置き場のリニューアルについて意見交換を実施。市から提示した案について意見をいただき、次回の会議で再度議論を行いたい。なお、今回は、海浜植物の専門家を講師に招き、海浜植物の保全管理マニュアルの完成を目指す。（事務局）
- ・台風以降、土砂が大きく流入したりしたと思うが、地形の変化などあったのか。（委員）
 - ⇒跳ね橋付近の土管まわりは土砂が削られている。御前浜の中央部分にもかなり堆積されている。香櫨園側は土砂の流入がひどい。高潮の影響により、土砂とともにハマゴウも2本ほど流された。その他の植物の上にまで海水が来ていたので、かなり流されてしまったと思われる。（委員）
- ・台風でかなり流されたということだが、今後の管理方針についての影響はあるのか。（委員）
 - ⇒漂着ごみを回収する際にコウボウシバ群落を損傷してしまったので、その件については、今後注意をしていきたい。また、砂が流されてしまった植生地については、専門家の意見を聞きながら、砂を戻すのか、自然の回復力に任せるのかを検討していきたい。（事務局）
 - ⇒基本的には、砂が流されて減っているので、砂を入れるのがよいのではないか。ちなみに、跳ね橋付近の護岸の砂がかなり削られてしまっているが、それはどのように考えているのか。（委員）
 - ⇒護岸については、尼崎港管理事務所の管轄になるので、そちらに確認をしていただきたい。（事務局）
 - ⇒海浜植物を保全する上で、今後は大きな台風や高潮によるかく乱を前提に計画を

立てなければならない。また、行政がお金を掛けて何かするのではなく、自然の回復性に期待をすることが基本になるが、そのことを地元の方にも理解してもらう必要があると思われる。(委員)

(2) 「第3次環境基本計画(素案)」の生物多様性に関する記載について

- ・「第3次環境基本計画(素案)」の記載内容について、前回の会議後に変更された内容を確認。第3次環境基本計画そのものは、現在パブリックコメント中であるため、今回の会議では、報告事項とさせていただきます。(事務局)
- ・目標の「種の絶滅を招かない」というところについて、環境省のレッドリスト2018があるのではないかと思うので、最新のものを確認していただきたい。(委員)
- ・防災計画の中にも生物多様性や森林整備などの文言が入っていればよいかと思うので、関連部局とも調整をしていただきたい。(委員)
- ・民有地の緑化のところで、緑地協定などはどのように推進するのか？(委員)
⇒緑地協定については、開発事業の際に、現況の植栽を守るなどの内容を盛り込んだ協定を事業者と結ぶ。(事務局)
⇒それは市と事業者で結ぶのか。高塚町の開発についてはどうなのか。(委員)
⇒高塚町については、緑地協定の内容を現在事業者と協議中である。(事務局)

3 検討事項

「未来につなぐ生物多様性にしのみや戦略(改定案)」について

○内容について

- ・事務局による改定案の説明。
- ・計画のタイトルについて、改定前と同じタイトルを使うのであれば、どこかに改定に関する記述が重要。例えば第2次など。なければ、担当者が変わったときなどに混乱が生じる。(委員)
⇒生物多様性国家戦略2010-2020のように、タイトルの最後に計画期間を記載する方法がある。次回までの間に事務局で検討させていただきたい。(事務局)
- ・SDGsに関して、生物多様性の切り出し方が2つある。1つは、SDGsの17ゴールを5つのPに分類し、生物多様性はそのうち「Planet」に属するという切り出し方である。もう1つは、17ゴールを社会・経済・生物圏という3層構造に分類し、生物多様性については生物圏に該当するという考え方である。見た感じ、この戦略がSDGsのどの目標に該当するかという切り出し方に見えるので、そうであれば、その旨をどこかに記載した方がよいと思われる。(委員)
- ・短期目標の2について、事業者などの参加も考えられるため。市民「など」の生物多様性への関わりの拡大とする方がよいと思われる。(委員)
- ・生産緑地と生物多様性保全の関係について、今後は検討していく必要があるのではないか。(委員)

- ・生物保護地区や自然保護地区について、どのような方向性をもって保全をしていくのかが定まっていない。野鳥の保護・要望・土砂の堆積などいろいろな事情があるので、明確なビジョンがないと維持管理をするのが難しい。また、甲山の斜面地のコナラなどについても方針があるようでない。戦略策定後に、自然保護地区などの重点的な箇所については専門家の意見を聞きながら管理計画などを作っていくと、この計画の中間見直しをするときに議論できるのではないか。(委員)
- ・川の行動計画に関して、先日の津門川の白濁事故の際にウナギが死んでいるのが確認された。ウナギは絶滅危惧種であるが、市内のどこに希少種などが存在するのか、マップに落とすなどの見える化をどうするのかというのが今後の課題ではないか。(委員)
 - ⇒生産緑地に関する動きがある。現在、総合計画が策定中、農業基本計画も策定中、生物多様性戦略も改定中という具合に、生産緑地に関する様々な角度からの計画が同時に動いている。そういった中で、都市緑地法の改正で、農地を緑地とみなすことになっている。今後の懸念としては、農地が宅地化されることが挙げられるので、総合計画のアクションプランの中で、第1に農地として継続する、継続できなかった場合は公有地として公園などにするという方針で全庁的に動いている。
 - ⇒武蔵野市などでは農業公園を整備しており、農とのふれあいをセットにしたものが増えてきている。都市公園のように整備するのか、そのような農業公園にするのかという議論も今後必要ではないか。西宮の中に農体験公園があればヒットするかもしれない。(小川委員)
 - ⇒昨年、宝塚市内でチョウの調査をした。農地では発見される種数がグンと増えたので、農地は住宅地の中では生物多様性の観点からも重要な役割があるといえる。農業公園のような形を考えるのは、良いかもしれない。(委員)
- ・目標で種数などを掲げているが、具体的にどのような形で確認された種数が蓄積されていくのかがよくわからない。現状、何かあるのか。(委員)
 - ⇒現状では、生きもの調査隊などのコンテンツを盛り込んだ西宮の自然ホームページがそれに該当する。(事務局)
- ・夙川ではアユの遡上ができなくなってきたが、変な整備を行うことがあるのか？(委員)
 - ⇒夙川がどういう川で、どのような経緯があるのかというのは、河川管理者である兵庫県は十分に把握しているので、市と常に協議をしておれば変な整備をされることはないと考えている。(事務局)
- ・御前浜と記載している写真は、夙川河口と記載するか写真を差し替えるなど検討していただきたい。(委員)
- ・西宮市に生育・生息する主な生物(海)について、気になる点がある。貝類の記載で二枚貝と巻貝が並び順で混同しているので、並び順を変えていただきたい。サルボウ

ガイを1つ後ろにずらし、ムシロガイを「アラ」ムシロガイにしていきたい。(委員)

- ⇒昆虫の記載のところによく見ればフナムシがある。どうしたものか。(委員)
- ⇒項目を増やすならば、節足動物あたりがよいのではないか。(委員)
- ⇒コウロエンカワヒバリガイだけ(外来種)という記載になっている。少し違和感がある。(委員)
- ⇒甲殻類という項目もあればよいのではないか。(委員)
- ⇒貝類の外来種には、よく見られるものでムラサキガイなどもあるので、在来種と外来種で分けて記載するのもよいかと思う。(委員)
- ⇒川・池沼の表では、水生生物という括りになっている。(委員)
- ⇒事務局でいったん整理させていただきたい。(事務局)
- ・将来像のイラストについて、事務局の改善案を提示。(事務局)
 - ⇒事務局案を採用。(委員一同)
 - ⇒岡田山にもチッチゼミは見られるので、残してもよいのではないか。(委員)
- ・川の行動計画にホタルの記載をしてはどうかということだが、現在、ホタルに関してどのような取り組みがあるのか。(委員)
 - ⇒市の取り組みとして、ホタル調査を継続的に行っている。また、ホタルが見られる時期に有馬川緑道の公園灯を夜間消灯している。地域の取り組みとしては、地域団体がホタル保護事業としてホタルウォークラリーを実施したり、ホタル調査の結果をホームページで公開している。また、山口地域の学校では、学生が作成したホタル保護を呼びかける啓発ポスターを有馬川沿いの橋に掲示するなどの活動を行っている。(事務局)
- ・川の行動計画にホタルに関する記載を入れるならば、川・池沼というカテゴリを意識して、モリアオガエルに関連する内容も入れてはどうか。魚類・昆虫類(ホタル)・両生類(モリアオガエル)など全体的にする。希少種の保護ということなので、どこまで表現に入れるのかは、難しい問題である。今の記述ではメダカやカワバタモロコといった魚類だけなので、いろんな水生生物を包含するようなニュアンスになればよい。その具体例としてホタルを入れるのは良いと思う。ピンポイント的にホタルだけが保護されると受け止められないような記載にしたい。(委員)
- ・川・池沼の将来像のイメージの説明文で、生態系の並び順が悪い。文章を少し考え直していただきたい。(委員)

○デザインについて

- ・次回の会議までに、冊子としてもう少しデザインを練った状態で作成する。(事務局)

4 その他

- (1) ひょうご森のまつり2019の開催について

- ・兵庫県内の市町村が持ち回りで開催をしており、今年度は福崎町で開催されたが、次年度は西宮市で開催される。(事務局)
- ・開催テーマの中で「めぐみ」とあるので、戦略の中の取り組みとして農とのつながりを意識して設定できればよい。(委員)
- ・海産物を扱っている事業者と協力できれば、森と海をつながりアピールできるのではないか。西宮市は「えべっさんのまち」なので、「海のまち」ということもPRできれば面白い。(委員)

(2) 次回の日程について

平成31年2月8日(金)を軸に、後日調整を行う。

以 上